

持続可能なごみ処理行政と 投票環境の向上について

平井 玲子 議員



ごみ袋の有料化を含めた持続可能なごみ処理行政

質問 本市では有料指定ごみ袋制度の導入が検討されていますが、現行体制を維持した場合の課題を伺います。

答弁 現在、収集従事者の平均年齢が60歳を超えています。特に排出されたごみが分別区分ごとに整頓されてい

ない場合、収集従事者がその場で仕分けをするなどの労力を要し、コンテナ配付といった作業も伴います。今後ともごみ収集の安定と継続を維持するためには、その在り方を見直していかなくてはならないとの認識を持っています。

質問 市民に負担をお願い

危機管理対策における防災環境の整備について

堀口 きく枝 議員



質問 群馬県地震被害想定調査について、12年ぶりに見直し調査が行われました。公表された結果を受けての本市の認識を伺います。

答弁 本市に最も大きな影響が想定されるのは、深谷断層帯・綾瀬川断層で地震が発生した場合であり、最大で震度6弱の揺れを観測

するものと予想されています。この地震の最大避難者数は、地震発生の日後で2940人、1週間後には3081人、1か月後には2940人との予想結果が示されました。この調査結果を踏まえ、防災施策の見直し、再検討の必要があると認識しています。

する制度である以上、持続可能性だけでなく、支援が必要な方々への配慮も欠かせません。高齢者や障がい者世帯への戸別収集、また子育て世帯や生活保護世帯などへの社会的配慮等について伺います。

答弁 手数料収入を市民へどのように還元したらよいか検討が必要で、丁寧に進めていきたいと考えます。

投票環境の向上

質問 システムの標準化に伴い、投票入場券等の文字

質問 耳で聞くハザードマップが注目を集め、全国の自治体で導入が始まっています。視覚障がい者や高齢者だけでなく、夜間や悪天候時の避難においても、耳から安全に情報を得て行動できる強力な防災ツールです。ユニボイスなど既存のアプリを導入すれば低コストで済むようで、また、外国の方専用の多言語版閲覧機能もあります。本市として耳で聞くハザードマップについての見解を伺います。

が小さく読みにくいという声があります。次回選挙に向けて、本市独自に文字サイズやレイアウトを工夫することが可能か伺います。

答弁 さきの衆院選では、新システム移行直後かつ急な解散により、本市独自の調整に至りませんでした。9月執行予定の市議選に向け、国の仕様を満たしつつ、文字サイズの拡大や配置調整などのレイアウト修正に取り組んでいきます。

質問 タッチパネルを使っ

答弁 防災情報を音声で聞くことができることから、災害弱者の方々の特性に応じた有効な情報伝達手段の一つであると認識しています。

要望 情報格差解消に向け、耳で聞くハザードマップアプリの導入を要望します。

質問 携帯電話基地局が被災した場合でも、多くの通話やインターネットなどの通信が可能で、スターリンク導入の考えを伺います。

答弁 スターリンクとは、低高度軌道の衛星を活用し

て候補者を選択して投票を行う、電子投票についての認識を伺います。

答弁 利便性の向上や選挙管理全体の効率化が期待される一方、他自治体において機械の不具合やシステムトラブルなどが発生し、訴訟に発展した事例もあります。導入については、技術的、財政的な課題、国の動向など総合的に勘案し、見極めていく必要があると考えます。



た、ブロードバンドインターネットであり、多数の人工衛星と地上アンテナをつなぎ、高速、低遅延のインターネット接続を提供する衛星通信サービスです。今後とも耐災害性を最優先に、情報収集や先進事例の調査研究を進めていきます。

要望 太田市が今年の2月に導入し、その後、前橋市も導入しました。本市でも、避難所における通信環境の安定のため、スターリンク等の導入を要望します。